

2019年3月19日

株式会社電通デジタル

## 電通グループ、AIを活用しソーシャルメディア向けの 広告クリエイティブの効果を配信前に予測するツール 「MONALISA™」を開発

株式会社電通デジタル（本社：東京都港区、代表取締役社長：鈴木 禎久、以下電通デジタル）と株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博、以下電通）、株式会社サイバー・コミュニケーションズ（本社：東京都中央区、社長：新澤 明男、以下CCI）、データアーティスト株式会社（本社：東京都港区、代表：山本 寛、以下データアーティスト）の電通グループ4社は、ソーシャルメディア向けの広告クリエイティブの効果を配信前に予測するツール「MONALISA™（モナリザ）」を開発、本日よりその運用を開始します。

ソーシャルメディア広告において、広告クリエイティブは広告効果を左右する重要な要素であり、また A/B テストや PDCA の高速サイクルが必要なことから、多数の勝ちパターンの準備が欠かせません。一方で、これまではどのようなものが広告効果を発揮するのかについての事前測定手法がありませんでした。そこで当社は、人工知能（AI）に特化した電通グループ横断プロジェクトチーム「AI MIRAI（エーアイ・ミライ）※」の活動の一環として、過去の広告配信データと広告クリエイティブを分析し、広告の配信前に効果を事前に予測することができるツール「MONALISA™」を開発しました。

具体的には、広告クリエイティブの特徴を数値によりベクトル化し、広告配信結果に紐づけることで広告効果の機械学習を行いました。これにより、効果の低い広告クリエイティブを広告の配信前に検知することができ、配信時から、既に検証済みの高精度な広告クリエイティブのみを優先的に選定し配信することが可能になりました。

本ツールは、Instagram、Facebook、Twitter の3種類のソーシャルメディアへの動画・静止画の広告配信に対応しており、「動画再生完了率」と「CTR（Click Through Rate：クリック率）」を予測します。また、特定のダッシュボードの導入なしに、メールもしくはビジネスコラボレーションハブ「Slack」で利用可能です。メールでは運用担当者が入稿すると、広告配信準備が整ったキャンペーンを自動で検知し、予測結果を送付する仕組みとなっています。また Slack では、Slack の Bot 機能を活用し、MONALISA™ 独自の Bot により、チャットスペースに必要な配信情報と広告クリエイティブを送信後、数秒以内で予測値を通知します。

今後も電通グループは、ソーシャルメディア向け広告の効果向上に向けて、広告クリエイティブの制作・配信プロセスの高度化を進めてまいります。



<「MONALISA<sup>TM</sup>」ロゴマーク>

※：AI MIRAI とは

電通グループの各プロジェクトで開発・運用されている最先端の人工知能（AI）のノウハウと、これまで培ってきた社外とのネットワークを結集し、未来のビジネスに不可欠な要素である AI の活用を社内外で推進する統括プロジェクトチーム。

<https://aimirai.ai>

以 上

**【本件に関する問い合わせ先】**

株式会社電通デジタル コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

島津・南口 TEL：03-6217-6036

Email：[press@dentsudigital.co.jp](mailto:press@dentsudigital.co.jp)

株式会社電通 コーポレートコミュニケーション局 広報部

湊・升森 TEL：03-6216-8041

**【事業に関する問い合わせ先】**

株式会社電通デジタル ソーシャルメディア部 統合／開発グループ

馬籠 TEL：03-6217-6220